

練馬区のあらまし

1	地勢	8
2	歴史	10
3	人口	11
4	気象	18



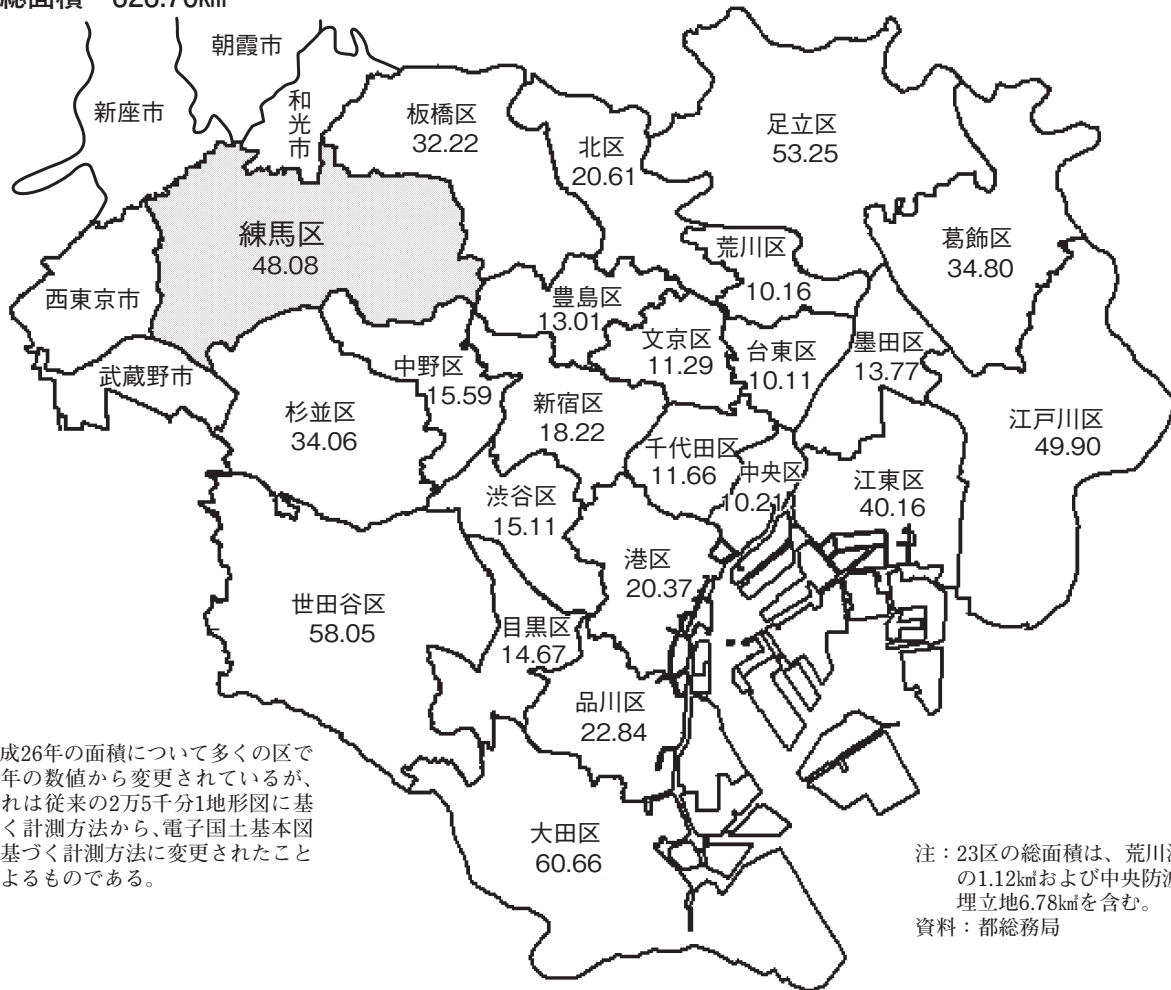
練馬区指定文化財 「鶴の舞」(無形民俗文化財)

1 地 勢

23区の位置と面積（単位：km²）

23区の総面積 626.70km²

平成26年10月1日現在



注：平成26年の面積について多くの区で昨年の数値から変更されているが、これは従来の2万5千分1地形図に基づく計測方法から、電子国土基本図に基づく計測方法に変更されたことによるものである。

注：23区の総面積は、荒川河口部の1.12km²および中央防波堤埋立地6.78km²を含む。
資料：都総務局

●位置、面積

練馬区は、東京都23区の北西部に位置し、北東から南にかけては板橋区、豊島区、中野区、杉並区に接し、西から南西にかけては西東京市、武蔵野市との境をもち、北は埼玉県の新座市、朝霞市、和光市に接している。

経・緯度でみると、東経139度40分52秒～139度33分46秒、北緯35度42分43秒～35度46分46秒に位置している。

なお、練馬区役所の位置は、東経139度39分8秒、北緯35度44分8秒である。

一方、練馬区は面積は48.08km²で東西約10km、南北約4～7kmのほぼ長方形である。東京都の総面積2,190.90km²に対し、練馬区はその約2.2%、23区の総面積626.70km²に対し約7.7%に当たり、23区の中では大田区、世田谷区、足立区、江戸川区に次いで5番目の広さである。

●地形

練馬区は、ほとんど高低差のないなだらかな地形を

している。

地盤高でみると、西側が高く東側へ行くにつれて低くなっている。水準基標によると、関町北四丁目（石神井高校内）では海拔54.02m、羽沢三丁目（開進第四中学校内）では海拔26.01mとなり、平均すると、30～50m程度の起伏の少ない台地状となっている（資料：東京都土木技術支援・人材育成センター 平成26年水準基標測量成果表）。

この台地は武蔵野台地といわれる洪積台地である。

●地質

練馬区の地質は、地質年代からみると比較的新しい時代に形成された地層で、台地は洪積層、低地は沖積層からなっている。

洪積層は、上部の関東ローム層、中部の粘土砂の互層、下部の砂礫層から構成されている。この台地の洪積層と、低地の沖積層の基盤になっているのが第三紀層である。

武蔵野台地の表面は、ローム層で厚く覆われていて水を得ることができないが、ローム層の下には粘土と

町名図



●地名の由来

「ねりま」という地名の由来には、○関東ローム層の赤土を黏ったところを「黏場」といった、○石神井川流域の低地の奥まったところに沼＝「根沼」が多かった、○奈良時代、武蔵国に「乗漕」^{のりぬま}という宿駅があった、○中世、豊島氏の家臣に馬術の名人がおり、馬を馴らすことを「ねる」といった、などの諸説があり、定説はない。

小石の累層があって、水を含んでおり、そうした層が谷の底、谷の側壁、段丘の崖の下などに露出して湧水となる。三宝寺池、富士見池や井頭池（弁天池）は、こうした湧水からできた池である（資料：昭和44年練馬区地下水調査報告書）。

●区の紋章



練馬区が平和で、健康で、明るいまちに発展していくようにという願いをこめて、昭和28年12月に制定された。

この紋章は、ネリマの「ネ」の字と「馬のひづめ」を組み合わせ、図案化したものである。

●区の花と木



区の花 ツツジ



区の木 コブシ

美しい花と豊かなみどりの、住みよいまちづくりを進めるために、区のシンボルとなる花と木を区民から公募し、昭和46年4月、花には「ツツジ」、木には「コブシ」を選定した。